



谷相新聞

咲かそう実らそう

谷相の夢



あけましておめでとうございます

謹賀新年

発行所
谷相集落営農組合

第11号
平成25年
12月発行

昨年中は組合の取り組みにご理解、ご協力をいただきお礼申し上げます。
本年も変わらぬお力添えをお願い申し上げます。
さて、全国的に高齢化や後継者不足で耕作放棄地が増えています。
谷相も、今後5年〜10年の間には、急速に放棄地が増えると思われまます。
そこで、組合としては、放棄地を増やさない為にはどうしたら良いか、組合員とともに話し合いをしています。
ただ、今の農作業部会のオペレーターの人数では受託できる作業面積に限界があります。
みなさんのお役に立つには、まず、オペレーターの人材確保です。
農作業部会に入ってもらえる方がいれば大歓迎です。

組合長 後藤 博士

営農組合オペレーター募集

いっしょにやろう

農作業部会

ニューフェイス紹介

今年から、前田和翼(まえだかずと)君が入部してくれました。
水稻の防除、収穫・調整作業や実証圃場の共同作業にと頑張っています。

来年も、ニラの作業がすいた時にはよろしくお願ひします。

会計 前田 和也



平成25年度

谷相集落営農組合役員紹介

組合長

後藤 博士 (ごとうひろし)

副組合長

前田 泰生 (まえだつねお)

会計

前田 和也 (まえだかずや)

農作業部会部長

前田 晴夫 (まえだはるお)

水稻栽培研究会

前田 晴夫 (まえだはるお)

アジサイ栽培研究会

前田 晴夫 (まえだはるお)

直販部会会長

大島 美都志 (まじよ)

直販部会
スタッフ募集
幸せの種をまきませんか

平成25年産

水稻の作柄について

今年は、梅雨明けが7月上旬で早く、雨が少なく、また高温状態が長く続いたためか、実張りが悪くて米の粒が小さかったため、農業を始めて過去最低の収量でした。おまけに収穫直前には、土俵ムシ(ウンカ)の被害で2番口が多い年となりました。
今後とも今年と同じような高温、小雨といった異常気象になるような気がして非常に心配です。

会計 前田 和也



今年度の米作り

6月の田植え時期には天候も良く、今年の米作りの出だしは順調に見えました。
しかし、7〜8月に猛暑に襲われ、いままでに経験したことのないような日が続きました。

水田に水が回らなくなり、時間水にした地区もありました。
一番大事な出穂時期に水不足に悩まされ、稲穂が立ったまま頭が垂れない水田があらわこちらで見うけられました。

また、それに追い討ちをかけるように刈り取り直前の9月末には、土俵ムシの大群に襲われてしまい防除に追われる毎日でした。

今年は農家にとっては苦労の連続の年であり、今年度ほど水の大切さを思い知らされた年はありませんでした。来年は倍返しですよ!

農作業部会部長 前田 晴夫



見えた 谷相の姿

『谷相地区の営農の今後』

—聞き取り調査を通して思うこと—

高知大学農学部

松島 貴則

昨年末から年始にかけてご協力いただきました「谷相集落の営農を考える集落営農アンケート調査」の補足調査をかねて、「谷相地区の農地利用に関する聞き取り調査」を本年8月下旬から11月にかけて実施してまいりました。

調査の結果につきまして別の機会に皆様にご報告することとして、これらの調査を通して感じたことを思うまま綴りたいと存じます。

〔農業において傾斜の持つ意味〕

香長平野にある農地は平面（2次元）ですが、谷相地区の農地は3次元である（標高差・傾斜がある）こと、そして既往の圃場整備事業は標高差や傾斜に起因する農業生産上の不利益を一面では低減させるものの、かえって不利益を増大させる場合もあることを強く再認識させられました。

〔中山間地域における生活・生計〕

今から20余年前、農林水産省の四国農業試験場に勤務していた時に、農業経営部を挙げて四国中山間農業の実態調査に取り組んだことがあります。

その時、四国中山間地域の人々の生計は、農業、林業、恩給・年金・仕送、公共事業（土木作業）等の複数の収入源によつて支えられており、その一つでも無くなれば生活を維持できず、また農業だけで生計を立てるのも非常に困難であると感じました。

最近になって久しぶりに中山間地域の調査に入つてみて感じたのは、生活の場と農業生産の場の乖離です。

かつては中山間地域に住み暮らし家産を守りながら他所に出て稼ぎを得て生活をする人が多かったのに、過疎高齢化の深化とともに、今日では他所に居住しながら家産を守るために中山間地域に通う人々が多くなったように思われます。

〔谷相地区農業の今後〕

若者にとつて就業の場として魅力ある農業経営体の育成を谷相地区にある資源だけで考えるのには限界があるように感じます。

「収入源となる農園を香長平野の適所に確保し生計の安定を図るとともに、儲けは少なく管理に手間のかかる中山間地域の農業・農地も守る」といった農業経営展開や、「晴耕雨読で時を過ごし安心して暮らせる老後のための住宅地・家庭菜園整備」といった農用地利用・生活環境整備など、地域や産業の枠をこえた発想が必要とされているのかもしれない。



今年の中山間地域直接支払制度

現地確認をふりかえって

今年も集落協定の後藤さん・前田さんの協力を得て、現地確認を行ないました。

香美市役所香北支所地域振興班

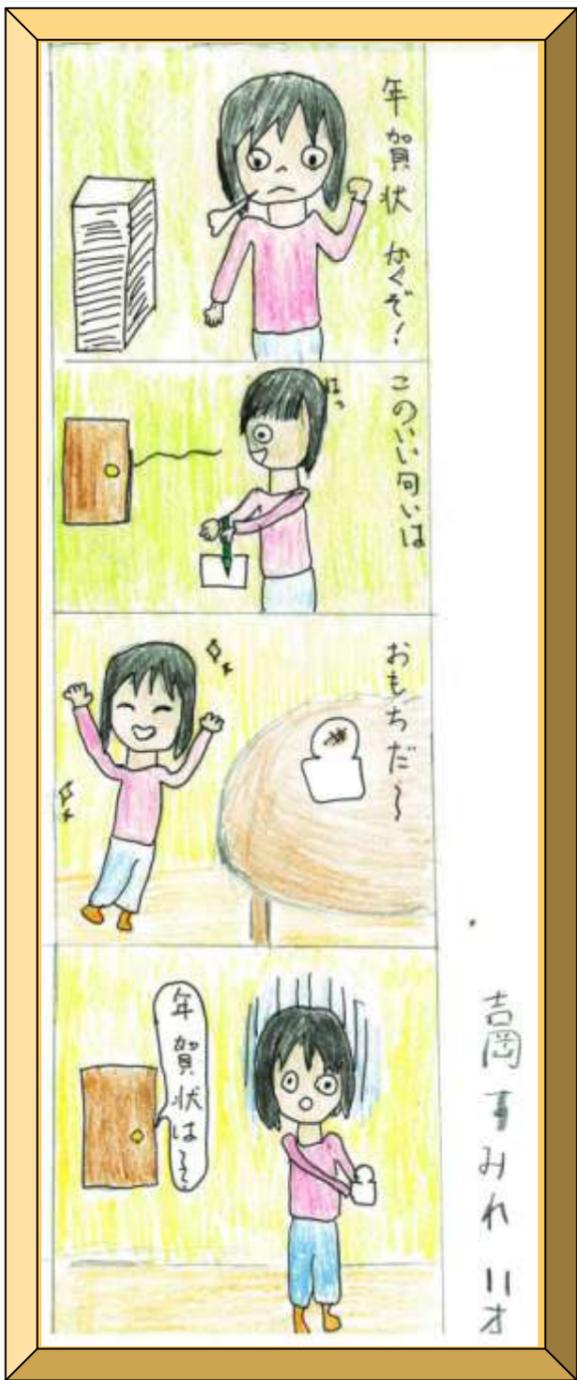
田中 崇行

谷相地区は、香美市の中で規模・金額ともに一番の集落協定です。

毎年全部を観て回るのにすごく時間がかかるので、今年は調査人数と日数を増やし、3箇所に分けて調査をしました。おかげさまで、例年に比べ、よりじっくりと現地を観て回ることができました。

さて、今年で4年目となった第3期の集落協定ですが、高齢化の影響を受け、年々自己保全の農地（しかも管理が不十分な農地）が市内全域に増えてきている印象を受けます。

現在、谷相地区はほとんどの土地で耕作ができていますが、いろいろな事情で今後農地の耕作ができなくなった時は、集落営農組合の農作業部会に作業依頼をお願いいたします。



た・に・あ・い



【残したい風景】

ヨーロッパ並みの直接支払があっても許される風景では？
中央東農業振興センター 農業改良普及課 矢野 喜秋



三十代紹介



僕が感じた谷相の良さ

コ ラ ム

谷相のみなさん、こんにちは。
高知大学の三井良太(みついいりょうた)と申します。

僕が初めて谷相に来たのは2012年の夏頃です。その時に、「なんて開放感のある景色なんだ」と感動しました。ちょうど夕暮れ時で夕焼けがとてもきれいだっただけを今でも覚えています。それから営農組合の役員会や交流会にも参加させていただくようになり、みなさんと交流を深めていきました。谷相の人たちは明るく元気で、すぐに仲良くなることができました。

昨年夏には高知大学の松島先生、市川先生と共にみなさんのご自宅に伺い、いろいろなお話を聞くことができました。中でも印象深かったのは、80歳以上のおばあちゃんが元気にニラを担いでいて、「若いもんには負けん」と頑張っていたことです。谷相の人の底力のようなものを感じました。突然の訪問であったにも関わらず、親切丁寧にお話ししていただきました。ご協力いただき、ありがとうございます。

谷相の一番の魅力は、なんといっても「美味しい野菜とお米」だと思います。
2012年の交流会に参加させていただいた際に、営農組合のみなさんが谷相の野菜とお米をふんだんに使った料理をつくってくれました。あまりの美味しさに、ご飯もおかずも何度もおかわりしてしまいました。

「もう食べられないな」と思った次の瞬間に餅つきが始まり、つきたてのお餅が目の前に。おなかはいっぱいでしたが、これまたとても美味しかったので、どんどん食べてしまいました。帰る頃には心もおなかもいっぱいでした。

そんな素敵な谷相とも今年でお別れになってしまいました。春には社会人として県外で働いていくわけですが、都会での暮らしに疲れた時は谷相のすばらしい景色と美味しい野菜、それらにみなさんの温かい笑顔を思い出して、頑張っていきたいと思えます。

高知大学農学部

三井 良太

谷相の雰囲気

谷相の雰囲気

高知大学農学部
市川 昌広

高知県の山々に点在する集落は数多いが、集落ごと
とに持っている雰囲気があると思う。私は関東育ち
で、その後、京都に15年ほど暮らしてから、5年
ほど前に高知大学に赴任して教鞭をとっている。だ
から、まだ、それほど高知の山村暮らしになじみが
あるわけではないが、数少ない体験からもその雰囲
気を感じることがある。

谷相へお邪魔するようになったのは平成24年の
夏以降なので、まだ2年たっていない。最初のころ
は営農組合の会議がある遅い時間帯に着いていたの
で、当時の谷相の印象は夕暮れの中、山に囲まれた
なだらかな土地が広がっているやや暗めなものだ。
その印象が変わるのが平成24年11月の交流会に
お邪魔させていただいた時のことだ。さわやかな秋
晴れで、ぼかぼかと暖かい中、集落内を散歩し、ご
ちそうをいただき、餅投げに参加した。午後3時ご
ろだろうか、南西の方角には高知市街が望め、海ま
でが小さく輝いて見える。南向き斜面なので朝から
夕方まで日がさしている。遠くまで開けていて、山
中にありながら閉塞された感じが少ない。町にも近
い。



私は、谷相から北へ山をひとつ越えた大豊町の怒田集落
を時々訪ねるが、そこは北から西に向けた斜面にあるので
午前中の日のあたりがやや悪く、四方が山々に囲まれてい
るせいか夕方とも日の入がやや早い気がする。冬の寒さも厳
しい。町からも離れた山の中だ。そこで私はここ3年ほど
ミシマサイコという薬草を栽培している。日当たりが今ひ
とつなのと、土が粘土質で小石が多く混じるので根を収穫
するミシマサイコの生育にはよろしくない（もちろん私の
腕の無さがもつとも問題だが）。谷相を歩き田畑をみている
と、素人目にもここは農業に適していると感じる。土がほ
くほくした赤土で、米にも畑の作物にもよさそうだ。
こういったところで代々暮らしていると、きつと人間味
にもゆつたりとしたところが出てくるのではなからうか。



もちろん、天気には必ず野良に出るといふ勤勉さは強
く育まれながら、その中にも心の余裕のようなものが
出てくるのではなからうか。高知大学の我々が訪ねる
といつも快く迎えていただけるのもそういった心の余
裕によるのだろうか。



特 集

トビイロウンカ（土俵虫）、アキウンカ）について

中央東農業振興センター

農業改良普及課 齋田 直哉

今年度は谷相地区集落営農組合でも3年前のようにトビイロウンカが発生し、多くの被害が見られました。そこで、その生態や防除方法について説明します。

【発生条件】

トビイロウンカは国内で越冬はできないため、毎年海外より飛来してきます。

飛来は南西諸島や九州の西部および南部では5月に見られる場合もありますが（第1回成虫）、西日本では主に6月中旬から7月中旬にかけて数回見られます（第2回成虫）。飛来する量は少ないですが、増殖力が高いため世代を重ねるにつれて密度が急増します。

25℃で卵期間は12日、幼虫期間は15日で、短翅型成虫の産卵前期間は長翅型よりも短く、産卵数も多いです。

飛来してきた成虫は本田では均一に分布している場合が多いですが、第3回雌成虫は集中分布しており、短翅型発生率が高いのが特徴です。



【症状】

トビイロウンカは成・幼虫ともイネの株もとの水際付近に生息し、吸汁による被害です。

飛来してきた成虫の密度は通常低いいため、被害はほとんどみられません。密度が増加するに従い、下葉は枯れ上がり、株元を分けてみるとクモの巣のような粘りけのある糸や白い小さなキノコのようなものが付着し、すす病も発生するようになります。

生息密度が著しく高い場合は株が枯死します。

被害は坪状に発生するが、放置しておくとう田全面に広がり、収穫皆無となる場合があります。

【対策】

1. 発生初期は低密度ですが、その後の増殖は著しいため、早い世代に防除し、増殖源を断つことが防除のポイントです。

2. 飛来は数回にわたり見られ、防除適期を把握することは難しいですが、主たる飛来のピークから25日後あたりが防除適期です。

3. 成・幼虫ともに株もとに生息しており、イネが繁茂してくると薬剤がかかりにくくなるので注意しましょう。

4. 第3回成虫（8月上旬）短翅型雌が100株あたり30頭以上生息している場合は、9月以降坪枯れが生じるおそれがあるので防除が必要です。



【トビイロウンカ（左：長翅型成虫、右：短翅型成虫）の写真】



【トビイロウンカ（長翅型成虫）（上：雄、下：雌）の写真】



【トビイロウンカによる被害の写真（左：坪枯れ、右：株元）】

